

vol.44-9 (通算 498号)

2014年12月号

やどかり

2014年12月15日発行

(毎月1回15日発行)

1987年12月19日第三種郵便物認可

発行人 公益社団法人やどかりの里

代表者 土橋 敏孝

〒337-0043

さいたま市見沼区中川 562

TEL 048-686-0494

FAX 048-686-9812

定価 50円(含会費)

未来を拓く住民主体の地域づくり

～鈴木文熹先生から学んだこと～

11月8日、「鈴木文熹先生と私を語る会」がやどかり情報館で行われた。昨年7月に他界された鈴木先生を偲び、私たちが学んだ多くのことを語り合おうと、秋田、高知、長野など各地から40人が集った。やどかりの里からも多くの人が参加した。

会は、鈴木先生の御子息である鈴木土身さんが写真を織り交ぜながら先生の足取りを紹介し、参加者1人1人が先生との関わりを語り合う形で進んだ。

鈴木先生は1927(昭和2)年、愛知県の寺院の長男として生まれた。ご自身の生き方を探る中で寺院を離れ、肥料協会新聞部勤務をきっかけに農業経済研究、農民経済研究の道に進まれた。農協労働組合の講演で訪れた土地で、まず農家の人たちがどういう状態であるのか聞き取りを行ったのが状態調査の始まりだったという。1977年、高知短期大学教授就任、退官後の1994年、長野県下伊那郡飯田市に南信州地域問題研究所を設立した。

やどかりの里との出会いは、やどかりの里30周年の節目を迎える時期だった。これからのやどかりの里の方向性を描こうと、1999年にメンバーの状態調査、2000年に職員の状態調査にご協力いただき「やどかりの里の5つの課題」が導き出された(機関紙「やどかり」2013年10月号、響き合う街でNo.18参照)。

以降、先生は、エンジュ弁当利用者状態調査や、有志の学習会に講師としてしばしばやどかりの里に足を運んでくださった。

農業経済研究からやどかりの里へ、結びつけ

たのは状態調査だった。農民組合を中心とする調査から市職員労働組合の労働者状態調査、そして保健師ややどかりの里との関わりから、調査主体は高齢者や障害のある人たちに広がっていった。高度経済成長期から新自由主義が台頭していく中、常に住民に向き合い、そこから浮かび上がる社会の矛盾を明らかにし、あるべき姿を発信し続けた先生の生き方が貫かれていた。

また多くの参加者から「地域のことが見えるようになった」「仲間が育った」「元気づけられた」と語られた。状態調査を通じ、相手方の暮らしや思いに向き合うプロセスで、主体は住民であり、私たちも地域づくりの担い手であることを学んだ。この国の主人公は誰なのか、ということも先生は問い続けた。先生の蒔いた種は若い世代にも確実に引き継がれ、こうした集いを継続していくことを確認し閉会となった。

やどかりの里は来年45周年を迎える。この間、競争・成果主義、自己責任主義の障害者自立支援法(障害者総合支援法)に対峙し、これを部分にして地域における活動づくりへと歩みを進めてきた。精神科病棟転換型居住系施設問題、生活保護制度改悪と経済財政中心に社会保障制度が大きく崩され、急速に押し進められようとしている。そうした中でやどかりの里が取り組むべき課題は何か、改めて5つの課題と総括し、50周年に向けた展望を描く時期を迎えている。「目の前の人に学ぶ」原点に立ち返り、現在、メンバーの2つの調査を準備している。鈴木先生からの学びをしっかりと引き継いでいきたい。